

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 山口 泰祐

- I 開催年月日 令和 5 年 7 月 20 日（木）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 59 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎山口 泰祐 ○高岡 宏和 梅島 清香
中川 加津代 坂林 永喜 上田 武
曾田 康司 狩野 安郎
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕※中川 加津代議長は委員として出席
〔副議長〕酒井 善広
〔説明員〕別紙名簿のとおり（薮下市民病院長が公務のため欠席）
〔委員外議員〕山上 尊士 出町 譲
〔事務局職員〕笹島 永吉 高嶋 史恵 二口 崇
〔傍聴者〕なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔福祉保健部〕

- 。高岡市公立保育所等基本方針の策定について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【高岡市公立保育所等基本方針の策定について】

- 年少人口は減少傾向、出生数は増加傾向、就学前児童数は減少傾向となっている。
減少、増加、減少と並んでおり、表現として分かりづらいため、もう少し工夫してはどうか。また、障害児やいじめ、DVなど、セーフティネットとしての公立保育所等の役割は大変重要であると考えているが、今後、公立保育所等は現状維持とするのか、あるいは削減する方向なのか。最後に、公立保育所等の再編方針の今後の

- 進め方の中で、地域の状況も十分に踏まえ、総合的に検討しながら取り組むとされているが、地域の状況とはどのようなもので、その中で重要視しているのは何か。
- △ 1点目の質問について、年少人口、出生数、就学前児童で意味合いがそれぞれ異なるため、結果的に増加と減少が混在している。もう少し分かりやすく表現できないか検討したい。
- △ 2点目の質問について、第一に、市全体の保育の質を高めるという考え方で検討することが大切であると考えている。子ども・子育て部会においても、公立保育所等が果たすべき役割について整理したうえで、施設再編の議論を進めるべきという意見をいただいている。保育の質の向上や保育環境の改善のために、例えば集団保育の確保、老朽化への対応が必要な場合などがあれば、統廃合について取り組んでいかなければならないと考えている。3点目の質問について、病児保育や医療ケア児などの多様な保育ニーズがある中で、保護者が保育施設を選ぶ際に、地域の中でそのニーズに応え、全ての子どもがしっかりと保育を受けられるよう、保育の確保をしていくという意味で、地域の状況も十分に踏まえ、総合的に検討しながら取り組んでいくと記載したところである。
- 保護者が第1希望又は第2希望とする保育施設に入所できるような体制づくりも含めて、今後の保育の在り方についてまとめていただきたい。(要望)
- △ 子どもの数が減っていく中で、今まで以上に保育の質を高めていくことに視点を置いた方針を今回お示しした。10年後や20年後、その先の未来においても、幼稚園と民間園と公立園がタッグを組んで、全ての子どもたちが質の高い充実した教育や保育を受けられる体制をつくり、様々な保育ニーズにしっかりと応えられる、また安心して子どもを預けることができる環境を整えてまいりたい。この方針を踏まえた上で、次のステップに進めていきたいと考えている。
- 内容について充実したものになってきたと思う。公共施設の統合については、別の部署が担当であり、庁内で議論をしていただきたい。また、今回の方針については、総合計画に入れていく必要があると思う。今年度中にとりまとめた後、このまま総合計画に入れるのか、違う形で入れるのか、見解は。
- △ 総合計画は市の羅針盤であり、市が進んでいくための基本となる計画だと考えている。総合計画に反映することは、もっともな意見だと考えており、対応してまいりたい。
- 今後の教育・保育の目指す方向の中で、特別な配慮を必要とする子どもと保護者への支援機能とあるが、具体的にどのような会議体で行うのか。
- △ 例えば、障害児医療ケア、発達障害、外国籍など、様々な背景を持った子ども、またその子どもを育てる保護者への支援が必要だと考えている。子ども・子育て課だけでは対応が難しい場合もある。障害者であれば障害の担当へ、ひとり親であればひとり親の担当へといった関係部局や関係機関へのつなぎや報告などを行い、切れ目のない支援をしていきたいと考えている。
- 個別案件に対して個別に対処するという体制ということか。
- △ それぞれの案件によって必要なもの、求められるものは異なるため、それぞれに寄り添った支援をしてまいりたい。

- 小学校に上がるという前提も含めて、次のステップに進めるようなしっかりとした体制を整えていただきたい。(要望)

2 その他

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【大雨の被害と対応について】

- 7月12日から大雨が降り、大変な状況になった。本市では人命が失われるということは起きていないが、床上・床下浸水などの被害が多くあった。消防本部への通報はどれくらいあったのか。
- △ 7月12日午後9時25分から翌13日午前8時30分までの通報件数について、高岡市消防本部管内では計39件の119番通報があった。重複する内容を除くと、自動火災報知設備の作動による出動が1件、水害による調査事案が33件である。水害の調査事案の内訳は、家屋の浸水が16件、用水の越水が10件、道路冠水が7件である。
- 3連休前にいち早く、ボランティアセンターを立ち上げたことについて評価したい。そのおかげで、連休中に多くのボランティアの方々に来ていただいた。一方で、平日はお手伝いする方が少なくなったとも伺っている。実態としてどのような状況なのか。
- △ 大雨の対応のため、社会福祉協議会において災害ボランティアセンターを立ち上げた。ボランティアの状況については、連休中の15日は32人、16日は54人、17日は48人だった。平日の18日は7人、19日は11人であり、ボランティアの方が少なくなっている状況にある。今後は、こうした状況をホームページや市公式LINE等を活用して、もっとボランティアの方々に来ていただけるよう周知したい。
- ごみの始末について、多数の問い合わせがあったと思う。大雨から1週間が過ぎたところだが、災害ごみの現状はどうなっているか。
- △ 本市では、連合自治会長を通じて被災状況をヒアリングし、その上で各単位自治会に連絡をしていただき、消石灰や土のう袋などの必要となる物資について、各単位自治会の希望をとって配付させていただいた。災害ごみについては、ある程度まとまった量が出てくると想定していたため、単位自治会ごとに集積場所を設定し、集積されたものを分別して回収するという形をとっている。土日、祝日もフル稼働で収集にあたったところである。
- △ 消石灰については13日から配付を開始している。1袋あたり20kgの袋について、13日から19日までに54件、260袋を配付した。配付した54件のうち、半数の27件が13日に配付したものであり、その後、数は減ってきている。土のう袋については15日から配付を開始しており、これまで9件、1,740袋を配付した。希望があった自治会のほか、ボランティアセンターに1,000袋を配付しており、ボランティアの方にも活用していただいている。ごみの収集について、今回、臨時仮置場が設置された自治会の数は30自治会である。1自治会1箇所としていたが、広く水に

浸かってしまったところもあったため、設置箇所数は全部で 36 箇所となった。このうち 22 箇所は収集済で、残りの 14 箇所についても現在収集を進めているところである。収集は直営と委託で対応しており、直営は 19 日までに 31,200kg、委託は 18 日までに 58,730kg の収集を行った。本来、市で処分していない家電リサイクル法に基づく家電 4 品目、タイヤ等の処理困難物などイレギュラーなものは直営で対応し、日ごろから収集している燃えるごみ、燃えないごみは委託で対応している。

- 各部局におかれては本当に一生懸命やっていただいたと思う。特にごみ収集については、連休中にフル稼働していたことについて、大変喜ばれていた。13 日と 14 日の連休前に私の方にも色々な問い合わせがあったが、この 2 日間で次の手をどう打ったかということが、今回の災害の大きな分かれ道だと思っている。そういう意味では、この 2 日間のうちにボランティアセンターの立ち上げやごみの対応をしっかり決めていただいて良かったと思う。まだ残っていること、これからすべきことについても対応していただきたい。(要望)
- ボランティアセンターの開設にあたっての課題、成果などについて、現時点でどう考えるか。
- △ ボランティアセンターについては、急遽立ち上げることになったため、どれだけ人が来るか分からない状況の中で、備蓄されているスコップ等の備品が不足することが想定されたため、市から貸し出しを行い、ボランティアを募集する際には、ボランティアの方にスコップを持参いただくように案内した。また、泥上げは住家を中心に行ったが、住家以外の場所についてどこまでするかという点が課題として挙げられる。
- ボランティアセンターについて、市として何ができるかということは、センターの主体である社会福祉協議会と今後詰めていただきたい。(要望)
- 築 10 年ぐらいの若い方のお宅 16 戸ほどが床上浸水となった。まさか床上まで来ないだろうと思っていたが、夜中の 2 時、3 時頃にどっと水が入り込んで、1 階にあった家電や衣服などが全て水に浸かってしまった。子ども服の用意など、何か福祉保健部でできることはないか。急に相談してすぐに対応することは難しいと思うが、対応いただけることをお伝えできれば、地元も安心すると思う。
- △ 例として子ども服が挙げられていたが、サイズや衣服の種類など、確認が必要な点もある。自治会の方からお話を伺いながら、対応できるものについては、対応していけるように努めたい。
- 小さい公園でごみを集積していたため、何度も収集に来ていただく必要があったが、しっかりと対応していただいた。この場を借りて感謝申し上げる。また連絡系統について、最初のうちは勝手が分からずに、個人個人が市に直接電話や苦情を言っていたが、自治会長に集約するようにした。自治会長に集約して対応するという形は、連合自治会にも周知していただきたい。また、ごみの問題であれば環境政策課に話をすればいいのは分かるが、別の問題の場合は、どの部署に言えばいいのか分からないところもあるため、その点を整理していただきたい。(要望)
- △ 議員におかれては、地域の自治会長等をまとめていただき、感謝申し上げる。広域で災害が発生した場合、個別に問い合わせをいただくと、こちらの受け口がパン

クしてしまうため、今回、連合自治会長や単位自治会長を通じて対応するという形をとらせていただいた。行政にできることは限られているため、初動としては、やはり地域の方々に助け合っていただくことが必要であり、また地域力というものを高めていく必要性を感じたところである。そういったことも含めて、今後の自治会の在り方等について考えていきたい。

- 浸水があった住宅について、連休中に既に壁材や床材の取り外しをはじめているお宅もあり、水を吸い込んで膨れあがった建具などもごみとして出てきている。災害ごみになるかどうか分からないが、今後も引き続きごみが出てくると思うため、収集に配慮いただきたい。(要望)
- △ 災害ということもあり、緊急的にやらなければならない場合もあるので、柔軟に対応しているところである。
- △ 今週末の 22 日と 23 日も体制を組む予定としている。できれば予約の連絡を受けて順次収集にまわるのが望ましいが、個人からの連絡も増えてきている。個人の方の対応については、現在検討しているところであるが、どのような形で受け入れるか、なるべく早くにお伝えしたいと考えている。自治会の仮置場の残り 14 箇所については、今週末も含めて対応するため、自治会長の皆さんにおかれては、長期にわたって大変だとは思いますが、もうしばらく協力いただきたいと考えている。

【消防職員の育児休業の取得状況について】

- 働き方改革ということで、年次有給休暇の取得や残業時間の削減など、目標を立てて取り組みがなされているが、出先の機関においては、「言うは易く行うは難し」ではないかと思う。消防本部でこれまで育児休業の対象となった職員数、そのうち実際に取得した職員数や取得した日数の状況は。
- △ 令和元年度から 5 年度までに子どもが生まれた職員は 107 名であり、そのうち育児休業を取得した職員は 2 名、取得期間はそれぞれ 30 日間と 22 日間である。
- この取得状況についてどう評価するか。
- △ 男性職員の子育て参加促進については、高岡市特定事業主行動計画の高岡市職員子育て支援プログラムにおいて、育児参加を目的とした特別休暇を含めた育児休業などの取得率を男性 40%以上として、数値目標を設定している。消防職員の取得率の推移は、元年度は 4.8%、4 年度は 28.0% で、5 年度も現在まで 30.0% となっており、目標値である 40% まであと少しのところまで伸びてきている状況である。一方、育児参加に比べて、育児休業を取得する割合は少ない傾向にあると考えている。消防本部では、これまでも職員に対して、育児休業制度とその取得についてたびたび周知しており、現在、育児休業を希望している職員の相談を受けている状況も報告されている。今後も職員に対して、制度の周知徹底と、職場環境の整備により、一層努めてまいりたい。
- 実際に子どもが生まれた職員に聞いたところ、制度は十分承知しているが、申し出できる雰囲気ではないと言っていた。育児休業を取得する割合について少ないという答弁もあったが、取得状況を向上させるための取組みについてどう考えるか。
- △ 法改正にあわせて、管理職に対し、子どもが生まれる旨の申し出があった職員へ

の育児に係る休暇取得の意向確認を行うとともに、休暇取得中の業務負担について配慮するよう通知しており、5年4月にも育児休業制度について会議を通じて説明を行った。育児休業の取得割合は少ないが、育児参加を含めた取得率は伸びており、育児休業を希望している職員の相談も受けている状況もあるため、今後も引き続き育児休業が取得しやすい環境整備や制度の周知等に努めてまいりたい。

- 職員が安心して働けるよう、また子育てもできるように、環境を整備していただきたい。(要望)

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[生活環境文化部]

- 。第8回高校生万葉短歌バトル in 高岡の開催について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

※下線部は、令和5年9月15日付けで当局より訂正の連絡があったことを受けて訂正した箇所

民生病院常任委員会 当局説明員（２８名）

生活環境文化部長	二 塚 英 克	市民病院長	藪 下 和 久
生活環境文化部次長	須 田 稔 彦	市民病院事務局長	柴 田 文 夫
生活環境文化部次長 共創まちづくり課長	大 野 洋 靖	総務課長	上 森 智 美
市民生活課長	松 本 武 司	医事課長	島 田 輝
環境政策課長	室 谷 智		
共創まちづくり課 多文化共生室長	橘 智 香 子	消防長	浦 島 章 浩
男女平等・共同参画課長	竹 内 文 雄	消防本部次長	有 澤 智 文
市民課長	徳 市 直 之	消防本部次長 総務課長	布 橋 隆 男
文化振興課長	寺 井 知 恵	予防課長	田 中 秀 和
		警防課長	神 谷 勝 也
福祉保健部長	戸 田 龍 太 郎	通信指令課長	沙 魚 川 文 春
福祉保健部次長	山 本 真 弘		
福祉保健部参事	長 田 由 美 子		
社会福祉課長	中 保 哲 憲		
社会福祉課 福祉連携推進室長	大 野 美 喜 子		
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	野 村 岳 人		
高齢介護課長	関 原 総 臣		
保険年金課長	尾 崎 正 和		
健康増進課長	竹 田 裕 子		

